

福井県立鯖江青年の家(1/2)

人と出会い、 自然とふれあえる、 里山の宿泊研修施設です！

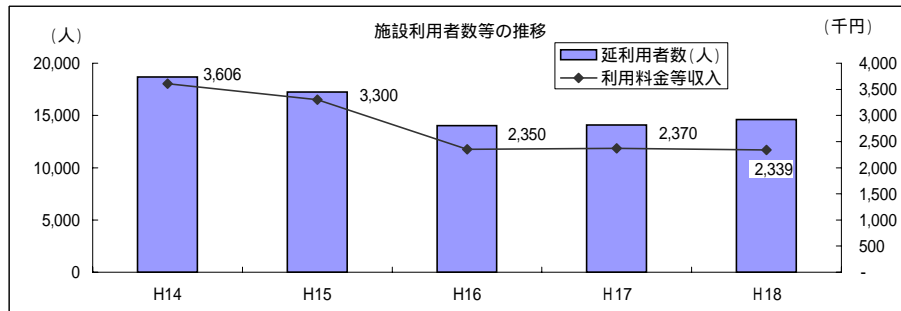
所在地	鯖江市上野田町19-1		
設置年月日	昭和48年2月1日		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上3階、延4,151.61㎡、宿泊室(120名)、研修室(120名)、多目的ホール(60名)		
職員数	5名		

利用状況等

	H14	H15	H16	H17	H18
延利用者数(人)	18,698	17,243	14,015	14,101	14,601
利用率(%)	32.7	32.4	27.0	25.2	24.9

利用者負担(使用料金)等

使用料	26歳以上	880円
	26歳未満	530円
	高校・大学生	390円
	小・中学生	270円



利用状況の推移	<p>昭和48年2月に開所してから平成19年3月までの延利用者は51万5,611人です。</p> <p>平成48年からの平均延利用者は14,732人で、過去5年間では平成14年度の約18,000人がピークです。</p> <p>平成18年度は前年度と比べて利用者数が3.5%増加しています。</p>
---------	--

施設の特徴

- 自然豊かな里地、里山に囲まれた社会教育施設です。
- ・上岡山の自然を活かしたウオークラリー等、地域に根ざした学習環境づくりを推進しています。
- ・丹南地域のほか、県内外の各学校やスポーツ少年団等に利用されています。
- ・また、大学生を中心としたボランティアリーダーの育成の場としても活用されています。



鯖江青年の家ホームページ

<http://info.pref.fukui.jp/syougak/sabae/top.html>

平成18年度の特徴について

事業実績	<p>平成18年度は、学校の放課後や週末においてのスポーツや文化活動、ならびに地域住民との交流事業を支援することを目的に地域こども教室推進事業を実施しました。</p> <p>花花クラブ、星空にアプローチ、ネイチャーゲーム、レザークラフト、土と炎のつどい、ミニ門松作り、水ようかん作り、バードウォッチングのつどい、合宿通学、わいわいフェスタ、待機スペース事業等さまざまな事業を行いました。</p> <p>【延参加者数：115名】</p> <p>県内の小学生から中学生を対象に、夏休みを利用して宿泊しながら様々な体験活動を行い、思いやりや自主性を養うことを目的とした長期宿泊体験事業を実施しました。</p> <p>【延参加者数：40名】</p>
------	--

鯖江青年の家(2/2)

行政コスト計算書(平成18年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	49,785	62.9%	103.1%
	退職給与引当金繰入	325	0.4%	216.7%
	計	50,110	63.3%	103.4%
物にかかるコスト	物件費	17,447	22.1%	92.5%
	維持補修費	3,062	3.9%	75.6%
	減価償却費	8,325	10.5%	100.0%
	計	28,834	36.5%	92.3%
その他	公債費(利子)	142	0.2%	6.4%
	その他	5	0.0%	100.0%
	計	147	0.2%	6.6%
合計		79,091	100.0%	96.5%
収入	利用料等収入	2,339	3.0%	98.7%
	その他収入	191	0.2%	97.9%
	一般財源	76,561	96.8%	96.5%

バランスシート(平成19年3月31日現在) (単位 千円)

借方		貸方	
資産	前年比	負債	前年比
有形固定資産	361,788 97.8%	固定負債	39,775 100.8%
うち土地	69,000 100.0%	うち退職手当引当金	39,775 100.8%
うち建物	291,629 97.2%		
投資等	0 -	流動負債	0 皆減
流動資産	0 -	正味資産	322,013 107.4%
計	361,788 97.8%	計	361,788 97.8%

主な指標 (単位: %, 円/人)

	H18	H17	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	442	451	97.5%
県民1人あたり将来負担額	49	48	102.1%
世代間負担率	89.0	81.0	112.6%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴

物にかかるコストは節減の結果、前年比7.7%の減少となりました。
 行政コスト全体では、前年度比3.5%の減少と、前年度とほぼ同額になっています。
 資産は建物が約80%、土地が約20%を占め、建物の減価償却分だけ前年度から資産が減少しています。
 18年度で起債の償還が終了しましたので、負債が約30百万円、43.3%減少しています。この結果、将来の財政負担要因となる負債は、退職手当引当金のみで、県民1人あたり将来負担額も低い水準になっています。

施設の目的上、管理運営上、主要な事業

施設の維持管理や主催事業等の実施
 (主催事業は職員の日常業務として実施)
 [H19予算額: 約21百万円]

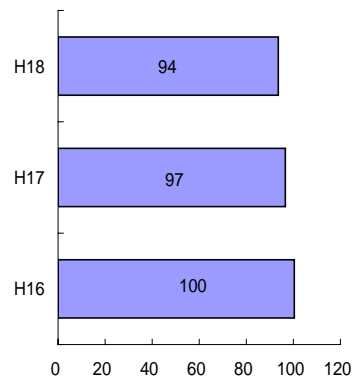
今後の課題

利用者数は5年間で2.0%超減少し、利用率も2.5%に落ち込んでおり、利用拡大を図っていく必要があります。
 そこで、立地条件を活かした青少年の体験学習活動事業のメニューの充実が必要で、また、職員の資質向上を図るとともに、地域や専門の知識を持った方などの協力を得て、事業内容を充実していかなければなりません。

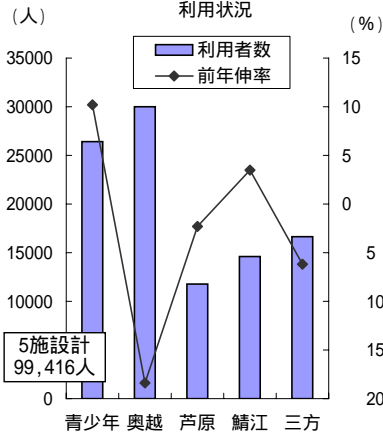
今後の事業方針 取組み内容

青少年の体験学習活動を充実するため、次の取組みを行います。
 ・立地条件を生かした活動プログラムの充実を図ります。
 ・当所が提供する体験メニューにとらわれない利用者の自主的な研修活動の推進します。

県民1人あたりのコスト負担の状況 (円)



各地区青年の家等の利用状況



各地区青年の家等の連結バランスシート

